

令和8年1月16日
農業技術センター技術普及部

低温・大雪による農作物等の被害防止対策について

1. ハウス等の施設管理等留意事項

- ・必要な場合はハウス内に臨時に支柱等を設置し、補強しておく。
- ・積雪状況に注意し、早めにハウス及び周囲の除雪を行う。
- ・加温設備のある連棟ハウスの場合、谷に雪がたまるので内張を開けて暖房を行う事によって積雪を溶かすことが可能である。
- ・加温設備のない連棟ハウスの場合は、谷部分のビニルを開け、谷部分に雪がたまらないようにしておく。
- ・ハウスの密閉性を良くし、保温能力を高めるため、破損したビニルは早期に補修する。出入口もしっかりと固定する。
- ・内張カーテンの破損箇所の修理を行うとともに隙間をふさぐこと。
- ・ハウスの開閉装置の電源を切り、積雪がある状態で作動しないようにする。
- ・暖房機の作動確認を行い、暖房用燃料の残量チェックをして必要ならば早めに補充する。
- ・加温設備がない場合はストーブ等を設置し、低温対策を行う。設置場所はハウス内の風上側に置くよう留意する。また、不完全燃焼や燃料の減少に注意する。
- ・水道等の水回り設備の凍結対策を行う。特に、養液栽培等の装置の破損を防ぐためハウス内の加温を行う（湛液式水耕栽培では栽培が無くても養液の循環を必ず行う）。給水をしていないハウスでは給液装置内の水を抜き、凍結による破損を防ぐ。
- ・雪による停電に留意する。停電の間は加温機が停止するが、その後電気の供給が再開された時の加温機の作動について注意すること。またその間の保温対策を行う。
- ・天候の回復後は、ハウスサイドにたまつた雪を除去し、側面からの雪の圧力によるビニルおよびパイプの破損回避を図るとともにサイドビニルの巻き上げが出来るようにしておく。

2. 麦類の積雪対策

- ・湿害発生を防ぐため、融雪水が速やかに排水されるよう、積雪前に明きよと排水口が接続し機能することを確認し、不備があれば手直しする。
- ・また、融雪水が土壤表面に滯水している場合は、明きよに水が抜けるよう軽く溝切りを行う。

3. 野菜の積雪・低温対策

- (1) いちごの促成栽培では、最低気温5°Cを目標に加温する。高設栽培の培地温は日中10°C以上を確保する。加温設備がない場合はストーブ等を設置する。
- (2) トマト栽培では、本ぼでは最低気温8°C以上を目標に加温する。加温設備がない場合はストーブ等を設置し低温対策を行う。育苗では、本葉3~4葉期までは15°C、7~8葉期までは12°C、それ以降は10°Cを目標に保温する。
- (3) 果菜類の育苗は、電熱温床を用いるため低温被害は受けにくいが、停電による温度低下が発生する場合に備え、ストーブ等を用意しておく。トンネル被覆は2~3重に厚くして保温に努める。
- (4) 葉菜類はハウス内温度が氷点下にならないように、必要に応じてストーブ等を設置し、低温対策を行う。ほうれん草や青ネギは-1~-2°Cで被害が発生する危険が高まるが、生育ステージや順化の程度によってはこれ以上でも障害が発生するので注意する。

4. 花きの積雪・低温対策

- (1) 切り花
 - ・ストック、キンギョソウは低温によって花器、茎や葉に障害が発生する。特に内張カーテンの無いハウスは注意すること。最低気温5°Cを目標に保温を行い、必要に応じてストーブ等の設置を行う。
- (2) 鉢物・花壇苗
 - ・温度確保に留意する。特に幼苗は低温環境に弱いので、温床、加温機等により温度確保を行う。

5. 果樹の積雪・低温対策

- (1) 施設果樹(ぶどう等)
 - ・加温を始めている園では加温機が正常に稼働しているか確認する。
 - ・強風や着雪で停電の恐れもあるので、既に発芽した園では石油ストーブ(10aあたり3~4台程度)などを準備しておく。
- (2) 露地果樹
 - ・積雪による枝折、枝裂け防止対策として支柱を立て結束誘引しておく。また、幼木樹等で完全に埋没している場合は、「引き込みによる被害」を回避するため融雪前に掘り出す。
- (3) 常緑果樹
 - ・樹冠にコモ等を巻き、低温と寒風による葉や若枝の凍結を防止する。

6. 畜産の低温対策

(1) 子畜の管理

- ・子畜は、寒冷の影響を受けやすく、寒冷ストレスから消化器病や呼吸器病の発生につながる場合があることから、すきま風を防ぐハッチやコンパネの設置、敷料を厚くする、スノコやお風呂マットを敷くなど保温に努めるとともに適切な換気にも配慮する。

(2) 凍結対策

- ・給水管やウォーターカップなどの飲水器の凍結対策を行う。畜舎内や運動場の床面が凍結した場合は、砂や融雪促進剤等の散布を行い、転倒などの事故防止に努める。